



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより

ためし



令和7年5月16日号 文責 上久木田 雄二



良さを生かす

自分が得意なことや自分がやりたいことを大切にするのは、今の時代は当然のように考えられています。

自分が選んだ職業ですら、初日に見切りをつけて代行業者を使って退職する時代です。

「得意」とか「やりたい」、「合っている」とか「コスパ」や「タイパ」等、個人の価値観のものさしだけで物事を決めることの危うさも感じます。

「自分の良さを生かす」というのは、本来どんな意味合いがあったのでしょうか。

- したくないことはしない
- 不得意なことには目をつぶる
- できないことは選ばない
- 負けそうになるとあえて避ける
- 不利な状況に向き合わない
- 他人に責任転嫁する

この6点を貫けば、おそらく自分の良さだけは発揮されることになるでしょう。良さだけしか見せないようにするので、本人も居心地がいいのは当然です。しかし、これが、自分の良さを生かすということなのでしょうか。

最近の子どもたちの中に、

- なんでせんばと?
- 誰が決めたと?
- 絶対せんば?

と口にするのを耳にします。

「先生が決めたから、しなければいけない」ことを伝えると、

- 先生に決める権利はないやろ。
- と言い始め、挙句の果てに
- 先生が言ったことは絶対じゃなかやろ。だって法律に書いてなかもん。

というような返しをしてくる。

決してこの子の本心ではありません。お子さんがこんな反応をするときがありませんか。実は、この子が伝えたいことは一つなのです。

「面倒なのでしたくありません。」

したくないことを伝えるのに、法律論を持ち出すのです。つまり責任転嫁をしようとするのです。

「自分の良さを生かす」裏側には、自分の良くない部分を克服する努力が必ず必要だと私は思うのです。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

